



**子どもたちの見守り**  
朝7時半、赤名連担地の通学路に、チリンチリンと、かばんに付けられた鈴の音が響きます。旧JR車庫近くの自宅前で、赤名小学校へ向かう子どもたちの登校を見守るのは、日高敬二さん、加壽美さんご夫妻と、三島みさえさんです。

日高敬二さんは、58歳まで会社勤めで、退職後、子どもたちの見守りを始めました。「あの頃は、毎朝4時頃に起きて散歩をして、そのあと時間があつたということもあつたかもしれん。誰かに頼まれたわけでもなく、自然な感じで子どもたちの見守りを始めたと思う。子どもが好きだったし、放課後、一緒にプランコや鉄棒、虫捕りをして遊んだりもした」

今年で75歳になった日高さん。見守りを始めてからもう17年ほどになります。その間、子どもたちの成長をその目で見てきました。登校途中に転んで怪我をした子には絆創膏を、調子の悪そうな子がいれば学校に連絡、必ずって学校に行きたくない子がいれば学校まで送ったり。まさに赤名小学校の児童みんなのお父さんのような存在。

そんな日高さんが、昨年の3月、病気で倒れました。数カ月間姿がなく、子どもたちは「今日もおっちゃんおらんのか」と聞きます。毎日、見守ってくれている日高さんの姿を子どもたちは必要としています。地域の人が毎日見守ってくれている。当たり前のごとくですが、子ども達にとっても地域にとっても、

とても幸せなことのはずです。倒れる前、冬はスキー場で働いていた日高さん。「子どもたちとも一緒に滑った。元気になって、またスキーをしたい。それが今の目標。それと、子どもたちを地域で育てていきたい。今は、核家族も多いと思う。そんな中で、地域の高齢者から子どもたちが教わることも、教えてあげられることもあるのではないかと思います。これからは子どもたちの成長を見守っていききたい。成長が楽しみですよ」

「おはようございます」のあいさつとハイタッチを交わしながら学校へ向かう子どもたち。見守る3人は、「行つてらっしゃい」と温かなまなざしでその姿を見送ります。



子どもたちの登校を見守る日高敬二さん、加壽美さんご夫妻と、三島みさえさん

**ありがとうを地域に**  
便利になった世の中で、つながりの希薄化は、地域で生活する上での、さまざまな課題を浮き彫りにしています。つながりが強かった時代を生きてきた、高齢者の皆さんは特に、そのことを強く感じているのかもしれない。

でしょうか？大切な人、家族や愛する我が子と一緒にいることもそうでしょう。もうひとつ、「感謝」を伝えられる人がいること、これもまた幸せにつながるのではないのでしょうか。地域の支え合いの中から感謝が生まれる。生活の中の「ありがとう」。その言葉があふれていることが、この地域で幸せに住み続けられる理由のひとつになるのではないのでしょうか。

誰もが安全・安心に暮らせる地域。この実現には、行政をはじめ、皆さん一人一人が地域の一員として、高齢者や子ども等に対する理解と関心を持ち、日常の中で「さりげない見守り」活動をしていくことが求められています。決して行政だけではできません。

皆さんにとって、「幸せ」とは何

でしょうか？大切な人、家族や愛する我が子と一緒にいることもそうでしょう。もうひとつ、「感謝」を伝えられる人がいること、これもまた幸せにつながるのではないのでしょうか。地域の支え合いの中から感謝が生まれる。生活の中の「ありがとう」。その言葉があふれていることが、この地域で幸せに住み続けられる理由のひとつになるのではないのでしょうか。

あなたの小さな親切が「ありがとう」を生み出していくのかもしれない。「おはよう」「こんにちは」「お元気ですか？」そんなさりげないあなたの一言を、地域は必要としているはず

**普段の感謝も感じながら**

この日集まった調理ボランティアは、男性4名、女性1名。数少ない男性の調理ボランティア数名が参加する日です。

「社会福祉協議会の職員さんに、『調理ボランティアをお願いできる女性がいらないだろうか』と聞かれて、男性でもいいじゃないかと思ひ、知り合いに声をかけたら、5人のメンバーが集まった(取材日は1名お休み)」と話すのは信藤一郎さん(町区)です。調理ボランティアとして登録している人は約330人。一人当たり年に1〜5回お弁当づくりに参加します。

参加している男性の皆さんは、「家ではあまり料理はしないので、味付けが特に難しい。切ったり焼いたり簡単だけど。女性はずいぶん、ぱつと作りますもんね。このお弁当づくりも、下ごしらえなんかはある程度してもらっているから大丈夫だけど。ボランティアということと同時に、普段の食事を準備してもらっていることにも感謝です」と、口々に話していました。

**あなたの力を貸してください**

新規ボランティア登録者も

**配食サービスボランティア募集中**

- ・調理ボランティア(年数回)
  - ・配送ボランティア(年数回)
  - ・友愛訪問活動者(毎週配達)
- ※調理・配送のボランティアの方には、お礼としてお弁当をお渡ししています。  
弁当の配達日/頓原地域は毎週火曜日、赤来地域は毎週金曜日  
(火曜日、金曜日、週2回利用される方もあります)
- 問合せ/飯南町社会福祉協議会  
(飯南町ボランティアセンター) 電話76・2170

赤名小学校の児童、約50人があいさつを交わします

